

夏休みには1日1時間 新聞を読もう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1) 2000年までもう5ヵ月。世界も日本も、どんどん変化しつづけています。世の中がどのように変わっていくのか、どんどん変化していく世界や日本の中で、自分自身としては、どのように生きていけばよいのか。

世界や日本の変化を見ながら、自分自身の生き方を考える「ヒント」になるものは、いろいろあります。

(2) その有力な手段として、「新聞」があります。

ほとんどの家で、新聞を購読していると思われるので、今回は「効果の上がる新聞の読み方」を考えます。

2. 夏休みには、1日1時間新聞を読もう

(1) 今までTV番組やスポーツについてのページとマンガしか新聞に触れなかった人も、今年の夏休みは最初のページである「一面」からていねいに1ページずつ読めるところまででいいですから、1時間の時間をかけて、新聞を読みすすめることをおすすめします。

(2) 「一面」には、その新聞社が世の中でおこっている出来事のうち、読者に知らせるべき内容で、今一番大切であると判断したものが、掲載されています。「一面」の下の方にある「コラム」は、その新聞社で、最も筆が立つ記者を経験した「論説委員」の人たちが何人かで執筆しています。

(3) 「一面」の左側には、その新聞社で、現在最も取り上げたい問題が、シリーズものの「特集」の形で取り上げられています。

(4) ページを少しめくると、大事な問題についてのその新聞社の考え方を示す「社説」があります。新聞社に入ってくる世界中、日本中の情報をまとめ上げ、世界や日本の問題の中で新聞社として「きっちり」意見を述べる必要がある問題について、何人もの論説委員の議論をふまえて新聞社の意見として、書き上げられるのが「社説」です。新聞は何のために読むかという問いに、「社説」を読むためだと、答える人がいるのも、そのためです。

(5) 「政治」や「経済」「社会」のページの他に「国際」のページもあります。是非、塾生の皆様は、「国際」のページをたんねんに目を通して世界ではどのようなことが起こっているのか、その基本的なことを理解して下さい。「国際」のページは「地図帳」をたえずそばにおいて、地名

や位置をたしかめながら読むと興味も増します。

(6)少し勉強のすすんだ人は、お金をため「週刊の英字新聞」や「日刊の英字新聞」を家で購読することを「心から」おすすめします。早めに「英検準2級」や「2級」を取得し、日本語の新聞を1日1時間読んで、内容がよくわかったら、英字新聞を1日1時間読むことを高校生や大学生になったら、実行することも「心から」おすすめします。

3. おわりに

(1)ただし、新聞を読むことは大切ですが、新聞に書いてあることが世の中でおこっているすべてではないことを知ることも大切です。新聞やジャーナリズムの任務は「問題点とその原因を徹底的に明らかにすること」にあります。ですから、問題になっていないこと、このままでもOKなことは新聞には取り上げられません。

(2)世の中で行われていることや、おこっていることの大部分は新聞には取りあげられないこと、問題にすべきと新聞社が考えることのみ新聞には取り上げられていることを理解することもお忘れなく。

(3)それでは、がんばって1日に1時間、夏休み中新聞を読んでみましょう。がんばって。